

# 7氏が一般質問

## 1期目4年間施策に対して

### まず本多氏『ビジョンなく思いつき村政』

弥彦村12月定例会  
2日目  
12月6日

午前九時五十七分開会。村政に対する一般質問を行い、安達丈夫(無所属)、柏木文男(同)、板倉恵一(同)、花井温郎(同)、本多啓三(同)、小熊正(同)、本多隆峰(同)の七氏が小林豊彦村長らの考えをたじた。午後四時十五分散会。七、八、九の三日間は休会。十日は本会議を開き、議案に対する総括質疑を行う。

一月に村長選挙を控村長一期目の最後の定例会の一期目の成果と二期集中した。

え、十二月定例会は小林村 目の施策に対して質疑が一期目の四年間について、小林村長は特別職の給与引き下げ、ガラス張りの村政、おもてなし広場整備、JR弥彦駅前の旧やじこ観光ホテルの解体と駅前広場整備、ふるさと納税の推進、大相撲伊勢ヶ濱部屋との交流、

モンゴル・エルデネ村との交流、保育園から小、中学校までの一貫した教育の推進などを振り返り、「菊まつり開催時などの渋滞解消、矢作駅前道路拡幅、弥彦地区の道路開発計画、競輪場大規模改修など残された課題は山積み。それらを進めていくためにもまず村財政の基盤強化、将来見通しの確立。それを基軸とした総合計画の策定が必要と考えている」と述べた。

つきの村政」と批判し、「う排除するよつな」とは村民憲章第四条の「他人を思いやり、助け合って温かい人間関係をつくりましょう」と挙げて小林村長の見解をたじた。

小林村長は、村を二つに割った昭和五十四年の村長選のあと、禍根を残さないようにと村民憲章が制定されたことを紹介し、「今の私の村政運営に対して絶対反対は三つのグループ。一つはこ

のグループ。一つはこも通してほしい、その思いで四月の統一地方選のときに村議会議員の選挙で争点にしてほしいという趣旨で書かせていただいた。私自身それは当然

「ほとんど名指しなかつたことを説明したが、そのあとの本多氏の

## 私の村政に絶対反対は3グループ

### 歩み寄りに協力呼びかける



一般質問に答弁する小林村長



弥彦村12月定例会二日日本会議

ていたが、指摘があつたので六本目としてあけさせていたたく」と公約に加えることを宣言した。